

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472900719	事業の開始年月日	平成17年2月1日	
		指定年月日	平成17年2月1日	
法人名	(有)ぱすてる			
事業所名	どんぐり庵			
所在地	(243-0213) 神奈川県 厚木市 飯山 2 2 3 7 - 9			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成23年8月25日	評価結果 市町村受理日	平成24年1月24日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1472900719&SCD=320
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまでと同様、ひとりひとりを理解するように努めその方が何を望み、どのようにして欲しいかを汲みとったケアができるようにと考えている。勤務している職員全てが同じように行えることが望ましいためミーティング等では入居されている方の言葉や表情、動きなどの意味を知るように努め、どういったかわりが望ましいのかや、その他ケアの基本となる事を繰り返し伝えている。それ以外にも職員自身の考える力を養うために日々、フロアリーダー制を設け実行しているところである。時間がかかることではあるが職員の質向上のためのさまざまな試みを今後も継続的に取り組んでいきたい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成23年10月24日	評価機関 評価決定日	平成23年12月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

小田急線「本厚木」駅からバスで15分程の丘陵地に位置し、周囲は閑静な住宅街で静かな趣があります。大型木造の洋風外観にはトップライトの明るい陽射しが2階の居間に注ぎ、むき出しの構造の梁が空間との調和をもたらしています。

<優れている点>

(1) 火災時に備えたスプリンクラーの設置があり、防災上の安全が期待できます。

(2) 今回の外部評価を受審するに当たって、ホーム全職員が各々自己評価を実施しており、評価の意義が理解されています。

(3) 管理者は入居者を「お客様」という意識で対応しておられ、お客様の自立支援やその人の生活を重視した中で介護職員が寄り添いながら、困難なところを支援するという姿勢を前面に打ちだしています。

(4) 「身体拘束廃止宣言」をしており、職員はそのことを理解した上で尊厳やアドボカシーが守られています。

(5) ご入居されている方の家族には「重度化における対応(看取り)指針と同意書」の書類を交付しており、看取りを視野に入れた対応がなされています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	どんぐり庵
ユニット名	みみこ

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの理解を深めること、日常生活に必要なことを、その方の状況に合わせて整えていくことを通して、いきいきとした生活を送る事ができるようにと考えている。理念の考え方は職員会議の中で、理解できるように話している。	企業理念はその共有に向け、ホーム玄関ホールに掲示しています。グループホームでは、より身近な言葉としての表現を検討中です。業務の中で判断に迷うところでは、常に理念に戻るよう、話し合っています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域でのお祭りやどんど焼などに参加している。また定期的にミニデイにも出席している。散歩の時に会う方と顔見知りになっている。イベントにもお誘いしている。	自治会行事へ参加しています。地元地域の祭りでは、子供会の神輿がホームに立ち寄りとの交流がされています。又、学生の体験学習を受け入れており、地元の中学生とも交流が進んでいます。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な機会はないが、地域の方からの相談があれば気軽に応じている。入居者の生活や活動内容を載せたミニ新聞を地域や家族に配布している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今回2年ぶりの運営推進会議でした。今回は防災について活発に意見交換され、ホームが今、取り組んでいることの報告も出来た。もう専門分野になっていくので、地域の方に意見を求めるのは難しいと感じている。このまま続けても、とても気を使うお茶飲み会なだけでしょう。	今年度は2回実施予定で、残る1回は後半期に予定されています。地域密着事業の地元への理解は容易ではなく、管理者以下ご苦労の様子が伺えます。	日頃の身近な話題を投げかけるなど絶え間ない努力で理解浸透につなげることを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	厚木市の48介護事業所で会を作り市町村との話し合いの場をもっている。管理者は会の事務局を担当し、市議会とも話し合いの場を設けている。厚木市と協力し人材確保やそれによりサービスの質の向上に取り組んでいて成果を上げている。	管理者は「厚木介護保険連絡協議会」の役員をされ、市との前向きな話の場を積極的に進めています。また、「厚木市介護保険事業所説明会」の実行委員会の事務局を預かり、業界としての福祉人材確保に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から「魔の三大ロック」物理的拘束、精神的拘束等については日ごろより職員に説明している。外に出たい時には希望に沿うように見守りをしているが玄関の鍵は防犯のため施錠している。	事業所として、「身体拘束をしないケア」の宣言をしており、利用者が外に出たい場合は、気軽に外に出る場면을側面的に支援しています。リビングでは職員の声より利用者の声が大きく聞かれ、のびのびと過ごされていることを察することができます。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で学ぶ機会を持つようにしている。職員の不適切な発言や行動があればその都度説明・注意をしている、もしそのような職員がいるときには規定により解雇。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方とは連絡を取り合い、信頼関係を保てるように努力している。制度についての職員の知識は十分ではない、勉強する必要がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時も時間をかけ理解していただけるように説明をおこなっている。一方的に話してしまうのではなく疑問点や不明な点を確認しながら説明するように配慮している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉や文章で意見を伝えることが困難な入居者に対しては表情や態度から思いをくみ取るように努力している。家族とは来所持に雑談・コミュニケーションをとり、また面談し説明・意見を聞くこともある。ご意見シートの設置、ご様子の記録送付などでかわかり、意見を反映できるように、努力している。	各利用者のバイタルサイン、ADL（日常生活動作）、体重の記録をA4版の紙面で一覧できるシートを作成し、定期便として家族の送っています。返信の際、得られた意見から、例えば「職員の名前がわからない」という意見には、職員の顔写真を紹介した手作りの案内を作成するなど意見を反映するようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時話しやすい雰囲気や体制を作るように心掛けている。基本的なことは伝えているが日ごろのケアに関してはそれぞれの裁量に任せるようにし細かいことは言わずに見守るようにしている。また、提案制度を作り採用している。	職員の個人面談は3年前に実施し、その後は実施されていません。職員の面談時に尋ねると、仕事での満足度は高く、仕事しやすい環境にあるということが聞かれました。社内の「提案制度」では、思うほどの収穫（応募）がなく、モチベーションをいかに上げていくかを管理者は常に検討しています。	管理者の思いと職員の個々の思いを相互に活かすためにも、個人面談を年に1～2回実施し、よりよい業務環境と職員のモチベーションの維持・向上を期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日ごろより人員を多く当てるようにしている。他に土日やイベント時には職員を増員・調整し対応している、賃金面でも能力に応じて格差を付けている。休憩所の整備等も徐々におこなっている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の向上のためにも力を入れたいと感じている。外部評価の事項にも職員全員が取り組めるようにし、他研修にも参加を促し対応している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相互研修に参加したり、地域での事業所同士の集まりなどにも積極的に参加している。管理者だけでなくほかの職員も参加できるように配慮している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の思い、不安や要望に耳を傾け、安心して、生活できる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を十分に聞き、不安、要望を把握して信頼関係を深める様、努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、計画作成者、フロア担当者などが入居前に必ず本人と会い話をうかがっている。情報シートを作成しアセスメント等も事前に職員が見ることができるようにしている。入居後もかわりを持てるように積極的にコミュニケーションをはかっている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の“思い”に共感し、入居者の得意な事をしてもらい職員も助けられている。年長者として、生活の知恵、習慣、文化等を教えられる事もある。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は、入居者を支えるという姿勢で共に考える関係に努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人に訪問してもらっているが、知人、友人の情報を把握できていない。こちらから会いに行ったり、電話や手紙の連絡の支援はできていない。	親戚の方の面会も時々あり、また、近所に住んでいた友人が訪ねてこられる場面があります。職員は日常の接遇に気を付け、訪問客の方にも気軽に来られるように、親しみをもって支援しています。	入居前のご本人の暮らしや環境、仕事仲間や地域交流等をアセスメントし、可能な範囲でさらなる交流の促進を図れることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お誕生日会などその方のために他入居者と飾りを作ったり。他入居者の居室の掃除をしたり、協力し合える環境を心がけている。気の合わない方同士の席は気を付けて替えたりしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までその様な入居者がいらっしゃいませんでしたが、今後その様な方がいらっしゃった時は会いに行くなど対応したいと思います。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	好きな食べ物、食べたいメニューを提供したりしている。“どこに行きたい”等のリクエストになるべく応じています。	生活現場の観察を重視し、職員ミーティングで全職員が意見を出し合いケアマネジャーも含めて、方向性を相談しまとめています。例えば、外食の意向については、好きなものやどこに行きたいかを聞き、ファミリーレストランやハンバーガーショップ、回転寿司等へ足を運んだりしています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートにより把握し、今までの趣味、好きな歌や食べ物などちょっとした事でも家族に伺ったりして情報を得て日頃の暮らしに役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子は記録に残し全員が把握するよう努めている。記入内容にすばやく対応しています。少しでも出来る事を提供できる様色々な仕事な仕事をみつけてして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人の希望や家族の意向を踏まえ関係者からの情報を照らし合わせケアプランに反映しているため個別のプランができていると思う。日々接するなかでも本人の思いや希望の把握に努め、面会時やケアプランをお渡しする際には家族にも意向などをうかがっている。月1回モニタリングを行い状態等の変化が生じた場合は、家族と相談する事や職員ミーティングで話し合い見直しを行っている。更新時は必ず職員からも意見を聞くようにしている。また必要時には医療関係者からの助言ももらっている。</p>	<p>月に一度のミーティングには2時間から2時間半の時間をかけ、その日の夜勤者を除いた全職員でカンファレンスを実施しています。やむを得ず欠席する人は、欠席届を出して、レポートを提出してもらい、チームケアを実施しています。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>伝達事項は業務日誌に、個人の様子を個人記録に記入し、日誌を一読すれば一日の様子が把握出来るようにしている。ケアしながら気付いたこと、工夫等、記入するとともに、朝のミーティングで言葉でも伝えて情報を共有している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者が暮らし続けるなかで、必要となる多様な支援を、ネットやミニ込み誌等譲りますコーナーで出来るだけ家族の出費をおさえる。又自力入浴不可能になった時、リフト式入浴機器を新しく設置する等取り組んでいる。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自治会に加入し、地域の人とつながる事を心がけ、ミニデイ、夏祭り参加、公民館祭に作品出品する等している。又、施設の行事(もちつき)には、地域の人々に参加を呼びかけ、利用者で進行を深めている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診時は、家族と連絡をとり了解後受診し受診結果は、速やかに連絡を入れている。一人ひとりの利用者のかかりつけ医や希望する医療機関に受診する時は、そのむね話し合い支援している。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医で、家族の希望により継続している方もいます。ホームの往診は2週間ごとにあり受診しています。法人の代表は病院の看護師の婦長をされており、医療連携が維持されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化や体調不良の時は、看護師に相談している。 いつでも、24時間、連絡をとれるようになってきている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に入院される場合、日ごろから受診や往診を通して接点があり情報交換はスムーズに行えていると思う。他医療機関へ入院するときは介護サマリー等の準備をおこない退院時は担当医や看護師と話し合いの場を設けたり家族と相談し体制を整える等の準備をした上で受け入れている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	責任者から家族へ説明をして今後どのようなケアをしていくのかを家族と話し合う場がある。プリントなども出て職員は理解してケアを行っている。	ここ1年間に、1件のターミナルケアが実施されています。家族の意向については事前アンケート調査をしており、看取り指針について家族に詳しく説明をしています。法人代表は病院の看護師長を務めておられ、家族や職員から高い信頼を得ていることが伺えます。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応のテキストを基にミーティングを実施している。 今年はまだ行っていない		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練をしている。	年に2回の消防訓練を実施しています。さらに社内には「防災プロジェクトチーム」を立ち上げる段階にあり、マニュアルの見直し、更新がされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人に合わせた言葉の使い方を心がけている。また本人が何をされているのか分かるまで(トイレ介助等)ゆっくりと話す。その人の生まれた土地・日々使っている方言に近い言葉で話す。	一人ひとりに適した対応を心がけており、呼称は名字に「さん」付けを基本としていますが、本人の好みや分かりやすさを考えて、愛称で呼ぶこともあります。プライバシーの保護については、他の家族や外来者との面会時だけではなく、電話対応の際も注意を払っています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の身支度など、本人が今まで家で大事にしてきた習慣を大切にしている。買い物時には1人1人食べたい物を聞き、それを購入するなどいろいろな場面で希望や思いを尋ねるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるがあくまでも本人のペースを大切にしながら関わっている。入浴等も本人の意向に沿うように配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人がいつもしている髪型や、服の着方をしてもらっている。本人が希望する髪形にカットしてもらおう。外食等に行く場合は、外出用の服を着たりとおしゃれの支援をしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が食べやすい様、食事形態や器も変えて、日々対応している。メニュー変更もし、食べたい物や食べられる食事を出している。調理・洗い物は入居者がまんべんなく関わられるように工夫している。	食材は毎週3回、職員が入居者とともに近所のスーパーに出かけて購入します。調理、配膳、後片付けなどの一連の作業は、すべて入居者とともに行っていきます。外食は2ヶ月に1回程度で、誕生会その他、特別食の日もあって、変化のある食事を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常記録で個々の目安となる水分量を把握し、1日を通して職員が把握できる体制となっている。また、食事は個々の能力や日々の変化に対応しながらその時に応じた食事を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをおこなっている。自分で出来る方は見守りをして磨き残しがないか観察し、状況に応じて支援している。また、最後に口腔内に食べ残しや汚れがないかもチェックしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考にして、排泄の間隔や水分量を見て、トイレに案内するようにしている。運動やマッサージ等も取り入れて、失敗ないように努力している。	排泄チェック表などを活用して、個々の入居者に合った排泄誘導を行い、食事に繊維質の食材や牛乳を取り入れて、便秘の予防にも努めています。適切な排泄支援の結果、入居後に、おむつからリハビリパンツ、さらに布パンツの使用へと改善された事例が、いくつかあります。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動やマッサージ、日常会話等で穏やかに笑って過ごしていただくように努力している。野菜をたっぷり召し上がっていただいたり、個々に合った水分量を意識しながら、できるだけ薬に頼らないよう努力している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	要望に応じて、連日入浴される方もある。その日の体調を見て、当日入浴する方を決めている。楽しめるように、その方の好きな入浴剤を決めていただいている。	少なくとも週2回の入浴を原則としていますが、毎日入浴する入居者もおり、それぞれの好みを尊重した入浴支援を行っています。1階の浴室に最近リフトを設置して、重度化した方や車いす使用者の入浴の際に役立っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠気が強いときや疲れ具合により、居室やフロアのソファで休んでいただいている。夜間、居室から出てフロアで過ごしたいという希望があるかたには、フロアのソファで休んでいただくなどの対応をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬について、職員が確認できるようにファイルにとじている。ご本人が服薬を終えるまで、声かけなどの支援や見守りを行っている。日頃から症状の変化を確認し、職員同士で情報交換を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴をできるだけ把握し、趣味や仕事にしていたことなどを日常生活に取り入れるようにしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や健康状態により天候が良い日には散歩やドライブに出かけるなどの機会を作っている。また、お祭りなどには地域の方に協力していただき、参加している。今後は、家族にも協力していただけるようにしていきたい。	食材の購入や買い物には、入居者と一緒に出かけます。散歩は欠かさずするように努め、ゴミ出しなどの日常的な作業は、入居者が分担しています。お花見、花火見物、ファミレスや回転ずしでの食事は年間行事として実施し、森林公園や宮ヶ瀬ダムなどに遠出することもあります。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方には、家族と相談の上でお金を所持していただいている。お出かけの際には、ご自身でお金を持っていき買い物ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のかけられる入居者は、自由にかけて話している。年始のあいさつ状は、本人が出したい人に出せるように支援した。葉書の準備から書くことまでできるだけ入居者がおこなうように工夫した。返信があるととても喜ばれていた。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、整理整頓し、廊下や階段等は毎日入居者とそうじし清潔感があるようにしている。フロアには、大きなテレビを準備し楽しめるようにしている。室温や湿度にも配慮している。	リビング、廊下、玄関などは、職員とともに入居者が毎日清掃し、年に2回は専門の清掃業者を入れています。室内の温度と湿度は常に注意して、入居者の健康を気遣っています。小型のうさぎを室内で飼育しており、ペットとして可愛がられています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに、ソファをおき、自由に座れる様にしている。うさぎを飼っており、えさやり等の世話を一緒に行っている。気持ちが落ち着かない時などは、うさぎが食べるのをじっとみつめて、癒しになっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとってなじみのものがあり安心して暮らせるよう配慮している。身体状況によっては家族と相談し布団からベッドに変更することもある。	寝具や家具、備品の持ち込みは原則的に自由で、ベッドとふとんの使い分けも本人の好みに従うようにしています。重度の入居者には、床ずれ防止マットを施設側で用意するなど、居心地良く過ごせる居室づくりに配慮しています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備には配慮している。手すりの設置により安全に移動できるようになっている。また調理や食器洗いの時には身体状況に合わせて座って行うことや、休憩を入れるようにしてできることを継続できるようにしている。		

事業所名	どんぐり庵
ユニット名	みみお

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に繋がっている	一人ひとりの理解を深めること、日常生活に必要なことをその方の状況に合わせて整えていくことを通して、いきいきとした生活を送ることができるようにと考えている。職員は提供場面において、自分に何ができるか分からなくなった時、この理念を見に行く。なので反映されていると思う。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ出しや散歩の時に近所の人とあいさつや会話を交わしている。スーパーやホームセンターまた、理美容室などの広範囲の地域交流の場も提供している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に2回、入居者の日常や記念日などの活動が掲載されている「どんちゃんダイアリー」を作成している。それを地域の人に配布している。研修にも参加している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今回2年ぶりの運営推進会議でした。今回は防災について活発に意見交換され、ホームが今取組んでいることの報告もできた。もう専門分野になっていくので地域の方に意見を求めるのは難しいと感じている。このまま続けても、とても気を使うお茶飲み会なだけでしょう。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	厚木市の48介護事業所で会を作り市町村との話し合いの場を持っている。管理者は会の事務局を担当し市議会とも話し合いの場を設けている。厚木市と協力し人材確保やそれによりサービスの質の向上に取り組んでいて成果を上げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日ごろから「魔の三大ブロック」物理的拘束、精神的拘束については職員に説明している。外に出たいときには希望に沿うようにし見守りをしているが玄関のカギは防犯のため施錠している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で学ぶ機会を持つようにしている。しかし職員の中には学び、話し合う機会が少ないと感じている者もいる。職員の不適切な行動があればその都度説明、注意をしている。もしそのような職員がいるときには規定により解雇。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方とは連絡を取り合い、信頼関係を保てるよう努力をしている。制度についての職員の知識は十分でない、勉強する必要がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時も時間をかけ理解していただけるように説明を行っている。一方的に話してしまうのではなく疑問点や不明な点を確認しながら説明するよう配慮している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉や文章で意見を伝えることが困難な入居者に対しては表情や態度から思いをくみ取るようにしている。家族とは来所時に雑談によりコミュニケーションをとる。また、面談し説明、意見を聞くこともある。ご意見シートの設置、ご様子の記録送付などで関わり意見を反映できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時話しやすい雰囲気や体制を作るように心掛けている。基本的なことは伝えているが日ごろのケアに関してはそれぞれの裁量に任せるようにし、細かいことは言わずに見守るようにしている。また、提案制度を作り採用している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より人員を多く当てるようにしている。他に土日やイベント時には職員を増員、調整し対応している。賃金面でも能力に応じて格差をつけている。休憩所の整備も徐々におこなっている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の向上のためにも力を入れたいと感じている。外部評価の事項にも職員全員が取組めるようにし、他研修にも参加を促し対応している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相互研修に参加したり、地域での事業所同士の集まりなどにも積極的に参加している。管理者だけでなく他の職員も参加できるように配慮している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時点での情報をもとに、実際に施設ではどのような様子が観察している。それを情報共有して本人のためのケアにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前見学や入居時に家族と合える時は、あいさつから始め、職員を覚えてもらうようにしている。日ごろから関わりあい、いつでも相談ができる雰囲気を作るようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、計画作成者、フロア担当者などが入居前に必ず本人と会い話をうかがっている。情報シートを作成しアセスメント等も事前に職員が見ることができるように積極的にコミュニケーションをはかっている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯などの日常生活の用事を一緒におこなっています。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のことで気付いたことや変化があったことは家族に報告するようにしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人との交流はほとんどない。ドライブの時に以前住んでいた場所を通ってなつかしむことはある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の意思により居室にいることはある。他人の言動により誤解を生じてしまうことがあるが、皆が安心して関わりあえるよう援助している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても家族が来所することはある。施設側から会いに行くことはしていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしい暮らしを完全には把握していないが、希望があればその通りにしている。会話の中から意向を観察することもある。訴えが困難な方には職員側の意向で動いていることもある。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートから生活歴などは把握している。それをもとに会話をしていることも多くある。家族から話を聞くこともある。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・排せつ・睡眠の主な生活のリズムは把握している。まず挑戦してからできること、できないことを知り職員間で情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人から得た情報をもとに家族に生活歴を聞いたり相談をする。また月1回のミーティングや日々の申し送りで職員で情報交換を行い、介護計画を作成している。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録にはその日の様子や変化を毎日記入している。毎月モニタリングを行い介護計画の実施状況を見ている。それを次回の介護計画に反映している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ニーズによって異なるが介護保険サービス以外にもさまざまな方法を考えている。たとえば「散髪」は行ける方は付き添ったり、外出困難な方には移動美容院や出張美容院を手配している。入居者にあったサービスが利用できるよう努めている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事に参加したり自治会がおこなっているミニデイに参加している。ミニデイに参加する際も床に座ると立ち上り困難な入居者には、椅子を持参して参加可能にしている。個々に合わせて楽しむことができるように配慮している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医がある場合は家族と相談している。体調不良等で協力医療機関を受診する場合は、受診前と受診後に家族へ連絡している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時だけでなく、日常の様子や排泄状態に関しても報告や相談を24時間連絡できるようになっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に入院される場合、日ごろから受診や往診を通して接点があり情報交換はスムーズに行えていると思う。他医療機関への入院は介護サマリー等の準備を行っている。退院については担当医や看護師と話し合いの場を設けたり家族と相談し体制を整える等の準備をしたうえで受け入れている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は責任者が家族と面談をして意向をふまえて方針を決める。職員全員に入居者個々の状態と対応方法、今後の予測されることについての講習がある。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等で定期的に緊急時の対応方法を学んでいる。緊急時対応マニュアルが見やすい場所に設置されている。マニュアルの見直しもしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	十分な量の非常用食料を準備している。その消費期限を定期的にチェックして入れ替えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の都合で入居者の行動を制限しないよう心掛けている。着替え選び、食事の好み、就寝時間等のこだわりを意識している。明らかに自尊心を傷つけるような発言は冗談でもしていない。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食器洗い、調理、洗濯、ゴミ捨て、掃き掃除など入居者が得意とされたり張り切ってできるような作業を提供している。入居者が何かの作業中でも関心のある作業や楽しみがある場合はそちらも促している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出の希望には付き添って実施している。食べたいものは健康状態に支障のない程度で提供している。居眠りや疲れが見られるときは30分程度の午睡を促している。喫煙、飲酒は本人と家族と相談のうえ、健康上差し支えなければ援助する。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は自分で衣類を選ぶよう援助している。迷う場合は助言する。起床時や入浴時にひげそりやヘアブラシなどの準備をして整容の促しをしている。ある入居者は行きつけの理容室があったが遠いため、近くを紹介して納得してもらっている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや米とぎなどの作業を任せたり、職員と一緒に野菜を切ったり大体の調理に関わってもらっている。洗いものはほとんど入居者にしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー表を作り栄養や嗜好を考えて対応している。水分は摂取量の表があり、必要量が採れるよう援助している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをしている。また定期的に義歯の洗浄もおこなっている。嚥下に心配がある入居者には、食事前に嚥下体操を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	表に排泄状況をチェックし個々のリズム把握や、健康状態の観察をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の補助食品や寒天などを食事に取り入れている。適度な腹部マッサージもおこなっている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は決めてしまうことが多い。日はある程度の予定を立てるが、体調や希望に合わせて入るようにしている。なるべく間2日は空かないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調や意見をうかがい気分良く入眠できるように努めている。眠りが浅い入居者には日中に手伝い等の活動をしていただき良眠できるように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個人ファイルに添付してあり、いつでも確認できるようになっている。毎月お薬表を家族に送付しており、変更時もわかるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の普段の生活や生活歴を把握し、イベントや生活内の楽しみ事を作っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ちょっとした散歩でも入居者の気分転換をはかるよう努めている。記念日や地域のイベント等、普段行けないところへも外出をしている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入居者の小遣いは施設で管理している。小額の買い物の際は支払い入居者におこなってもらいたい。個人で現金を持っている方は家族にも承知してもらい、自分で支払いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が自ら電話をかけることはない。家族からの電話を取り次ぐことはある。年賀状は自分で書く方や郵便局に行く方など分担しておこなっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日入居者と一緒に掃除できる場所はおこなっている。困難な個所は職員がおこなっている。トイレは汚れたら随時掃除をしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ある入居者は玄関ロビーの椅子に着席し一人で気分転換をされている。居間の座席は各自定着しており、自然と決まっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は昔から使っていた家具や思い出の品に囲まれ、かつ使いやすいようレイアウトに気を使っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゴミ捨てや入浴、洗濯干し、食事の支度など見守りと支援をしつつ、本人にできることをしてもらっている。道具や作業場を使いやすくしている。		